



#### ■実践内容:

苺田小学校では、総合的な学習の時間や理科の時間の中で、自分たちの学校や地域の環境保全や維持について考えグループで活動しました。総合的な学習の時間の「苺田町の海とわたしたちの暮らし」を通して、役場農政課の方を招き、水産業に従事している人々が地形や気候などの自然環境を生かした牡蠣の養殖などの工夫や努力をしていることを聞き、豊前海を豊かな海にしていくには、自然環境を守っていくことが大事であることと気付くことができました。このことから子どもたちは、海の「環境と生き物について」課題をもち、カザミの幼生の飼育・放流を行ったり豊前海に流れる若久川の水質調査や生き物調査を行いました。また、理科の学習の「生き物の暮らしと自然環境」を通して、人は、空気・水・植物や他の動物とどのように関わり、どのような影響を与えているのか、自分たちもできる環境保全は何かを考え、校庭の二酸化炭素吸収量を測定しグリーンカーテンづくりを行い、二酸化炭素と気温の変化の関係を調べました。

#### ■実践成果:

- 資源豊かな環境が苺田町にあることを実感し、生態系の特徴や多様性、また、それらを脅かす要因と保護対策を学びました。
- アサガオやゴーヤのつる性の植物を壁に沿って育てました。結果、夏の強い日差しを和らげ、葉の蒸散作用や気化熱により周囲の温度を下げ、それを通して涼しい風が流れ込み室温の上昇を抑える効果があることが分かりました。

#### ■実践ポイント:

子ども達が、自分の身の回りから課題を見出し課題を追求するために、地域の生き物の暮らしと自然環境を活用することを重視しました。